



安政再刻
 消息往来
 全
 板金元

海山



消息性来

卷六

九曜六庫

凡消息者道者修出所遠因不
限何事人圓為用達之之也先志
状定紙取扱文字一筆破上修致
世達合世多紙中人言書言物矣
書其札法收考書并第法紙面

古書紙法通好浦扱世扱因各一
附惟之備季春若依寒春若修各
未通也百春有暖氣長雨兼若松
夏至病暑不向晴去用分甚皓處晴
松若難凌入袖中不晴不之天也若
海安秋若殘暑秋若秋若松若松若

消息

敬請
 德道
 安命
 女命
 壽考
 長壽

家
 存
 後
 長
 後
 高

此乃有法海志は好むに似ては名も實
 加事極難有交事長命辱淨分は合今
 叙今志は後主生年去子先月去月
 先生達を員外郎後今晚今約時若
 昨今海客を後其意未亦未のの後日
 聖約事事お應示者也仍幸却海邊

奉還淨出流光陳今所余未未若
 担當は為は汚好更別の更身是純淨る
 中輝は美石也故海邊也仍幸去子先月去月
 此乃有法海志は好むに似ては名も實
 加事極難有交事長命辱淨分は合今
 叙今志は後主生年去子先月去月
 先生達を員外郎後今晚今約時若
 昨今海客を後其意未亦未のの後日
 聖約事事お應示者也仍幸却海邊

其美其雅其生其貴其易其山其雲其
ごあん どうくまうんい そろひまうらちえん
 其美其雅其生其貴其易其山其雲其
ごあん どうくまうんい そろひまうらちえん
 其美其雅其生其貴其易其山其雲其
ごあん どうくまうんい そろひまうらちえん
 其美其雅其生其貴其易其山其雲其
ごあん どうくまうんい そろひまうらちえん
 其美其雅其生其貴其易其山其雲其
ごあん どうくまうんい そろひまうらちえん
 其美其雅其生其貴其易其山其雲其
ごあん どうくまうんい そろひまうらちえん
 其美其雅其生其貴其易其山其雲其
ごあん どうくまうんい そろひまうらちえん
 其美其雅其生其貴其易其山其雲其
ごあん どうくまうんい そろひまうらちえん

毛以相勝廉忍養集不巧本定念以
よろしう そりあつ りんじん ようしゅう ぶせう ほんてい ねんい
 入魂之看睡安生外園之有似教源
いこんしん かいしん せいあん せうがわ げんおのり けうげん
 既况到志名甲申進俄以希以刻念急
けいけい たいし ながの とうしん せいご いたし けいねん けいじん
 當後射法持技會粹茶和奏毛振
たうご せうはう じぎあ けいすい ちわしあ けんげん
 當拓法信法以括月待日信會系
たうくわつ けいけい けいけい げつげつ たいじつ けいけい けいけい
 會法地毛律其山樂攻宅飯富主
けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい けいけい

完私先抽宅尚高遠尚治地者窮
在疲勞以系那也否完在完以創在
以家化香信遠化竹後遠營建森
上初佳依浦相發却男禁榮者家
家誓若履海居送區婚姻智人編結
狂娘為常進生所路他出生安產幼

少成長成人古冠長年充年充後
善用發安智利以家業家職福貴
朽勵善梅在滿新傳為助瑞始末
劫宜安妻用善夫海學純中穿費金
成吟味裁許公事一併持任者高理
金想志奉安博危不危外不取合貸

備取老日記代文源文人札送状を形
質物あむ為の答は今銀申意再之每
念於如念之惟保保及心至生速佛
種取佛年有皆海田畑今領夫判判
知又佛佛也結宿教其教以教宿更
後月名之為物運送持王運送於

日雇人巨佛馬宿經法讀代性
還從來途津不國不才為好寄遠遊
近美清之食者為書別信寄只備物云
申亦平生志意敬後下小嗜分可了
第堪世務別權外不惠者天師教書好
我修一國勝之向直之陽美國為寄

入相霄漢建侯受封法曉延放博家
授首用世字同武應素素漢物統在明
緒禮以成化法智古傳の美矣念支離
病世世作及家門親類一家門親
族係者流款由緒春有屬家來出狂僕
婢朋友侍素主君臣不帥能師述述

後以物遠源素以素為活以素為消
意氣之毒笑正逢恐先以本以是錄
弗脚の毛飛礼か来は後礼は後者名
代字上口強辨後は後者類打款を疑
角面獨向と楚も肉の重も也信取為
名更納為素以初と師以告後者芳

親族諸君之暇的勞遠例凡之應
煩以痛獲物日增以好為使以會使
生守一葉山出急在後加特約請
我系之何公推事然坐兩室物若私
妻悍娘兄弟姊妹伯父叔叔弟甥姪
孫弟孫玄孫胤智後智男男如算奉

子婿嫁女稱如推矣推音喜人
所之海全之好其骨是身其色純
丈候去然冲妻外悍娘為也夫妻
牛乳多細其水如石結動下寧令法念
及水及安因角海都智去法痛入
透之若之等順誠長取以南安若也

美遠意は物縁に影映り外に出ず意
同は月を以て影に似せしむる如く
改曆法は夏を夏と名づけて中納言
重初海限休初法は佳例に如く
改曆法は夏を夏と名づけて中納言
重初海限休初法は佳例に如く
改曆法は夏を夏と名づけて中納言
重初海限休初法は佳例に如く

懺星春魂柳精天會具格法初格
音有経回向柳に配得定名重法格料理
音有経回向柳に配得定名重法格料理
音有経回向柳に配得定名重法格料理
音有経回向柳に配得定名重法格料理
音有経回向柳に配得定名重法格料理

順持者二種一為後高之州後
海軍也後廢舟水揚事船中
中廣中上若怪雜常故有致而必海
不寧不真似之昭月泰人法中令
中中中富新為跡本富以銀通
中中中結返若也云云云云致先

大概有坊書紀畢
消息性未終

安政四丁巳歲夏新刺

江戸南傳馬町二丁目

書肆 山田屋庄次郎板

三波山
照山主